



「臥竜鳳雛」



*タイトルの意味は？調べてみよう

2019・12・24 第14号

学年主任 森本 聡一郎

1. 「年の瀬に」 慌ただしくなる年末を前に…

24日の終業式を最後に冬季休業に入ります。『1日の計は朝にあり、1年の計は元旦にあり』。1日の計画は朝に立て、1年の計は元旦に立てるべきである。物事は最初が肝心であるという喩えです。『計』とは計画の意味です。とはいうものの、私も実際に計画を立てることはなかなかできないものです。しかし、初詣には必ず行きます。そして1年の家内安全を祈願します。一年に1度は直立不動の姿勢と心で心身を清めたいと思います。

●正しい参拝方法

- ①必ず手と口を洗うこと（杓をそのまま口につけない）
- ②そっと賽銭箱にお金を入れます（お金を放らないこと）
- ③鐘を鳴らします。
- ④二礼二拍手し、両手を合わせて日頃の感謝とお願い事をします。
- ⑤最後に一礼

●年賀状を出そう

年賀状の歴史・・・平安時代に貴族の間で新春に年賀の挨拶を賀状にして述べる風習があり、江戸時代に飛脚制度の発達で年賀状の交換がされています。

年賀状のマナー・・・一年の初めにあって友人や知人の幸せを祈る挨拶状です。新しい年の初めにあたり、感謝や近況、抱負などを書きます。賀状は本来1月3日までに届くようにします。遅くとも7日までが年賀です。



2. 「健康を癒すスポーツ、駅伝」

冬至が過ぎ、冬の到来を意識する季節になりました。私は中学時代から陸上部に入り、長距離に取り組んできました。中学1年の冬季練習。冬の寒さにやる気が起きず、先輩の目を盗んでは帰宅する毎日でした。そんな時、ある1冊の本に出会いました。東京オリンピックマラソン日本代表「円谷幸吉」選手の本でした。貧しい生活の中、親の反対を振り切って走り続けた少年時代。好きな長距離を思いきりできた自衛隊時代。そして、椎間板ヘルニアとの闘いなど…。私の甘い考えと墮落した生活は一変しました。年末年始は駅伝がテレビ中継されます。もし時間があれば見てください。放映日を掲載しておきます。

- | | |
|-----------|------------|
| 12月30日（月） | 全日本大学選抜駅伝 |
| 1月1日（水） | 全日本実業団駅伝 |
| 2日（木） | 箱根駅伝（～3日） |
| 12日（日） | 都道府県対抗女子駅伝 |
| 19日（日） | 都道府県対抗男子駅伝 |
| 26日（日） | 大阪国際女子駅伝 |



3. 「1月行事予定」

1月	8日(水)	始業式 大掃除
	9日(木)	課題考査(①英語②数学③～平常授業)
	10日(金)	課題考査(①理科②国語③～平常授業) キャンパスカウンセリング
	13日(月)	成人の日
	18日(土)	模試(昼食準備) 8:40～14:00
	24日(金)	キャンパスカウンセリング
	29日(水)	城北畑小学校合同かるた大会(5・6限)
	31日(金)	校内長距離走大会(3限～) 予備日2月5日

4. 「私の恩師 第2回」

3組担任 石元真理

私の恩師

改めて学生時代を振り返ると、実に多くの先生方との出会いがあった。今でもよく覚えているのは、個性的な先生、厳しい指導の先生だ。しかし、私の心に残っているのは、中学時代にお世話になった先生である。

その先生には三年間英語を教わった。初めて学ぶ外国語、不安よりも楽しみの方がはるかに大きかったのは、その先生のおかげである。というのも、先生は毎時間教科書の英語だけでなく、様々な英語に触れさせてくれた。ビートルズ、セサミストリート…現在のように気軽に海外メディアに触れることのなかった私たちは、外国語だけでなく、海外の文化にも触れさせてもらった。しかし、楽しいだけでなく、時に厳しく、私たちに緊張感を持って学習することの大切さを教えてくれた。毎日課される課題から、語学学習は日々の努力が不可欠であることも教わった。

実はつい先日、その恩師に久しぶりに連絡を取る機会があった。丹有地区の英語の先生を対象にした研修会の講師依頼をするためである。「先生は私のことをきっと覚えていないだろう。」と思いながら、失礼ながら突然メールを送らせていただいた。(恩師は現在大学教授である)

すると、数日後返事をいただいた。その内容を見て、私は驚いた。まず、先生は私のことを覚えてくださっていた。更に、今回の依頼は教師冥利に尽きるということ、「教職課程の生徒に『教師をしているとこんないいことがある』ということをお伝えたい」と書かれていた。本当にうれしいお返事だった。

残念ながら、講演の方は日程の方が合わず、今回はお出会いできなかったが、いつかまたお出会いして、またご教示願えたら、と思っている。